



今後の環境学習・教育における「まちなか環境学習館」の位置づけ

宇部市市民環境部 環境政策課課長 村岡和弘

近年、地球温暖化を要因とする気候変動や生態系への影響など、地球規模での新たな課題が顕在化し、地球に暮らす一人ひとりの環境配慮行動が求められています。

国において、2050年カーボンニュートラルの実現が掲げられ、各地方公共団体においても同様の動きが始まっています。

こうした中、本市においては、第三次宇部市環境基本計画を策定し、今後10年間の環境政策の方向性や柱となる施策を位置付けたところです。

当該計画の5つの柱の中で、省エネや再エネの推進、自然環境及び生物多様性の保全、環境教育・学習の拡充を掲げています。

ここから共通項目として見えてくるのは、これらの推進は、全て「人」に委ねられる事業だということです。つまり環境政策は、人が行動して初めて価値や効果が生まれるものであって、いかに人の心を動かし、行動させ、育成していくかが鍵となります。

まちなか環境学習館は、これを促していく拠点の一つとして機能すべきであり、求められている存在です。

当施設には大人数を集められるスペースはありませんが、個別相談や施設前広場での学習会等の開催、図書コーナーの充実、インターネットや電話での対応など、できることは様々あると思います。

いずれにしても、市内外の子供や大人たちが環境問題を知る、学ぶには、まちなか環境学習館に行けばどうかなる、教えてもらえるという流れを作ることが大切です。

また、幸いにも当施設には環境に関する3団体が入居しているため、連携による相乗効果、各団体による活動効果の検証などを通じて、単なる事務スペースではなく、環境学習・教育の人・知識の拠点として機能することが出来れば、学習館の価値も一層高まるのではないかと期待しております。

環境分野の政策は、待っているだけでは、なかなか市民が興味を示してくれない現状があります。

今後はあらゆるネットワークや機会を通じて、学習等の入り口のハードルを下げた上で、いかに市民の興味・関心をひくことができるか、官民一体で検討していく必要があると考えています。

新年度を迎えるにあたって

NPOうべ環境コミュニティー理事長 浮田 正夫

4月より、受託事業の2年目を迎えます。2021年度にそれまでの指定管理事業から受託事業へと非常に大きな変化があり、何かと大変な1年でした。地方財政の緊縮化も相まって同様な立場にある、どの団体でも、世話役の高齢化は進むけれども、スムーズな世代交代が図れないという悩みをお持ちのことと思います。

10年前に比較すると、世の中がよりせちがらくなり、ボランティアでも何かやろうという人たちはうんと少なくなっていました。「残された人生、あとは自由に楽しんで過ごそう」、「楽しいことなら参加するが、つらい仕事はいやだ」という人がほとんどです。面倒なことも誰かがやらなくてはなりません。子供た

ちへの出前授業でも、「楽しくなければ聞かないよ」ということをよく聞きますが、大切なことは真剣に伝え、子供たちも真剣に聞くべきこともあると思います。

道徳心、利他心、和の大切さなどを小さいころに植え付け、それぞれ個性に応じた多様性ある教育により、天賦の才能を発揮させることがこれからの不透明な時代に求められるのではないのでしょうか。渋沢栄一は早くも明治時代に一律の管理教育では、鉢植えの樹木を育てるようなものであると指摘されているようです。時間はかかると思いますが、ESD教育改革がいちばん大事かもしれません。目下、UKC（うべ環境コミュニティー）として、待たなしの世代交代と、骨太の方針、会員が積極的に関われる体制づくりを鋭意思案中。やるべきこと満載です。

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始（12月29日～1月3日）



Home Page



facebook



twitter



NPO 法人うべ環境コミュニティー

地域と大学の連携による高齢者の不安解消

小野地区振興対策委員会 会長 末田昭男

宇部市小野地区では、地域課題の掘り起こしを目的として平成28年度に中学生以上の全住民アンケートを実施しました。

そのアンケートを集計すると、小野地区住民が最も不安に思っている項目のトップは「医療機関」でした。

小野地区は高齢化率が宇部市内トップの57.8%（令和4年1月1日現在）ですが、医療機関は予約制の歯科医院が1か所あるだけで、高齢者の健康や医療に関する不安は計り知れないものがあると思われます。

このような不安を少しでも軽減できればと、同じ宇部市内に位置する山口大学医学部との連携を平成30年1月より開始しました。

連携の内容は大学で学ぶ医学生（医師の卵）による健康講座と健康座談会の開催です。

開催場所については、地区の中心に位置するふれあいセンター等ではなく、出来るだけ高齢者の暮らす近くまで行こうと、小野地区内25自治会の集会所を巡回することにしました。前半の30分間は血圧や熱中症など季節に応じた健康講座で、後半の60分間は住民と医学生による座談会です。

座談会においては、健康や医療の話だけにとどまらず、明るく楽しい雰囲気の中で若者と高齢者が思い思いの話をしています。

参加した高齢者からは「若い学生さんなので気兼ねなく何でも身体の事が相談できた」「ひさしぶりに若者と話して楽しく元気が出た」と好評で、医学生からも「地域住民と直接ふれあうことは学校では経験できない貴重な機会」「将来の開業に向けて活かしていける経験」「地域医療の厳しい実情が理解できた」などのうれしい声が上がっています。

令和3年12月までの約4年間で20自治会を巡回し、残りの5自治会を巡回した後は2巡目に入る予定です。この取り組みは、地域と大学との連携事業の好例として市内外からも高い評価を頂いています。



集会所での高齢者と医学生の健康講座・座談会の様子

リアル桃鉄 YAMAGUCHI

山口大学学生 辻辺 貴晃

私達は、テレビゲーム「桃太郎電鉄」を山口県内の鉄道を実際に利用したゲームイベントとして開催しました。「桃太郎電鉄」は、鉄道網を活用したすごろくゲームであり、本プロジェクトでは山口大学生が5つのチームに分かれてサイコロをふりながら実際に移動して得点を競うものです。

加えて下車した駅や付近を散策し、鉄道と徒歩のみで見つけた”魅力ある景色”を紹介するというものです。自家用車が観光する際の主たる移動手段となっている山口県において、大学生が鉄道と徒歩のみを利用して新たな山口県の魅力を発見し、県内の良さを広く発信することを目的として、この企画を計画・運営しました。

昨年12月に企画を開催しました。企画終了後、参加者さんから頂いた写真をもとにスポットを記載した観光パンフレットを作成しました。私たちも知らないようなスポットが存在し、まだまだ県内の魅力を発見できることが分かりました。昨年度の企画で下車しなかった駅など数多く存在しているため今後も随時各駅の情報を更新していくことが出来れば良いと考えております。

一番苦労した点としては、県内の鉄道は便数が少ない路線が存在しているため、次の電車の待ち時間をどのように過ごしていただくかを考えることでした。結果的に、次の電車来るまでの時間に駅周辺を散策して“魅力ある風景”を撮影することに決定しました。宇部市でも宇部新川駅前から撮影された素敵な写真を撮影したチームがありました。Instagramにて参加者が撮影した数多くの素敵な写真

を掲載しておりますので是非ご覧ください。

参加者の多くから「鉄道を使った旅行は楽しかった」という声を頂きました。県内170を超

える駅周辺には、まだそれぞれの知られざる魅力というものがああります。

実際に皆さんもその魅力を発見するために鉄道を利用した旅を行ってみてはいかがでしょうか？



宇部新川駅の風景



観光パンフレット